

体育授業におけるリズムダンスの教育内容の検討

—ステップに着目して—

田中 志保里 (宮崎大学)

1. 目的

1999年改訂の学習指導要領に導入されたリズムダンスは、重要な動きの一つであるステップについて、これまでも具体的な中身は示されておらず、教育内容であるにも関わらず明確ではない。そこで本研究では、具体的なステップの種類を明らかにし、その全体像を捉えるとともに教育内容の明確化につなげようとした。

2. 方法

プロ(Dリーグ)、大学、高校、中学校、小学校、小学校運動会の6ステージ17の動画から抽出したステップ(4カウントを1ステップ)を対象とした。抽出されたステップは、まず「足の運びの順序性」「両足の動きか片足の動きか」「クロスするステップか」「動きの組み合わせ」の4つの視点で分類を行い、さらに「移動の方向」「主な動き方」の2つの視点で類型化した。

3. 結果と考察

(1)ステップの分類・類型

17の動画を対象として、4カウントを1としてステップをカウントしていくと、出現したステップの総数は762となった。その762のステップの中から同じステップを省くと、191種類のステップが認められた。

次に、191種類のステップを上述の4つの視点を基に分類すると、77に分けられた。さらにその77を類型化すると、「移動の方向」の視点で、「A:前に出るステップ(7分類)」「B:後ろに下がるステップ(5分類)」「C:左右に行くステップ(13分類)」「D:その場で踏み込むステップ(14分類)」「E:前に踏み込むステップ(4分類)」「F:後ろに踏み込むステップ(2分類)」「G:左右に踏み込むステップ(3分類)」とそれぞれ整理された。また、「足の主な動き方」の視点で、「H:両足同時に踏み込むステップ(4分類)」「I:回るステップ(8分類)」「J:蹴るステップ(2分類)」「K:ジャンプするステップ(4分類)」「L:スライドするステップ(4分類)」「M:クラブをするステップ(2分類)」「N:それぞれの方向に踏み込むステップ(3分類)」「O:フロアのステップ(1分類)」「P:片足立ちでのステップ(1分類)」とそれぞれ整理された。

以上のように「移動の方向」の視点で7つ、「主な動き方」の視点で9つに整理することができ、16に類型化できた。

この16の類型についてステージごとに出現するも

のを見ると、Dリーグが13、大学が15、高校が14で、中学校・小学校・小学校運動会が11で、あまり差は認められなかった。また、16のタイプのうち、A、B、C、D、H、I、Jは全てのステージで出現していた。ただ、小学校では出現していないものも存在し、それは複雑な動きをするものであった。

(2)ステージごとのステップの速さ

ただ、同じステップであっても、Dリーグと小学校とではDリーグの方が難しいステップであるように見えるものがあつた。そのように見えた理由として、ステップの速さによるものではないかと考えたので、速さに着目して分析することにした。

そこで、1秒あたりのステップ数を計算したところ、ステージが上がるほど1秒間当たりのステップ数は多くなる傾向にあつた(Dリーグ:0.74回、大学:0.71回、高校:0.48回、中学校:0.43回、小学校:0.48回、小学校運動会:0.24回)。

上記のことを踏まえ、リズムダンスにおけるステップは図のように構造化して示すことができると考えられた。体育授業のリズムダンスにおいて、小学校や授業の始めでは、基本のステップや動きがシンプルなものを中心に、中学校高校や授業の後半ではステップの速さを変化させたものや動きの組み合わせをしたものを学習することでステップ選択の幅が広がり、自己のイメージしたものをより自由に表現することに繋がると考えられる。

4. 主な参考文献

・文部省(1999)小学校学習指導要領解説体育編,東山書房, pp.56-58.

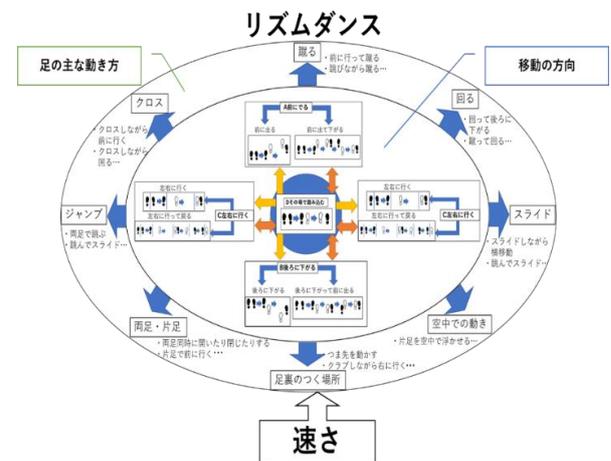


図. リズムダンスにおけるステップの構造